三豊中学校学校通信　～「自ら学び、豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒」を目指して～

希望が丘

令和３年６月２８日

第 １３ 号

涙のうらに　～日本選手権初優勝～

本日お配りした学校通信の中に、日付の誤りがありました。正しくは「２５日（金）」です。訂正してお詫びいたします。

今回も、陸上の話題にさせてもらいます。

~~２６日（土）~~、陸上の日本選手権で、過去に類を見ないほどの激戦となった、男子１００mの決勝が行われました。９秒台を出している４人の選手が全員出場するという豪華な顔ぶれでした。これまで、この種目でオリンピックの参加標準記録（１０秒０５）を突破しているのは５人。この選手たちが日本選手権で３位以内に入れば、即代表内定という緊張の中で決勝は行われました。そして、「１０秒の闘い」を制したのは、これまで「引き立て役」と言われることもあった多田修平選手（住友電工）でした。

「引き立て役」とは、あるときの自身のコメントで出た言葉。桐生祥秀選手が日本人初の９秒台を出した時も、先日、山縣亮太選手が日本新記録を出した時も、どちらも２位は多田選手でした。初の９秒台や日本新記録に沸く横で、自分が負ける映像が流れることに、多田選手は悔しい思いをしていたに違いありません。しかし、それを乗り越える力を我々に見せてくれました。朝日新聞スポーツ部陸上担当記者のツイートによると、**「見た目は同じようなスタートに見えるが、実は、細かい修正を繰り返している。こだわりを捨てて新しいことに挑戦できるのが、彼の最大の才能です。」**とコーチは話していたそうです。

そんな日々を積み重ねて、迎えた日本選手権決勝。これまでの悔しさを一気に爆発させるかのように、得意のロケットスタートで先頭に立ち、苦手な後半もうまくまとめて、日本選手権初優勝。記録の１０秒１５も、雨上がりでほとんど無風状態の中では、好記録と言っていいと思います。３位に入って同じくオリンピック代表内定となった山縣選手とともに、本番での決勝進出に向けて応援したいと思います。

【多田選手のコメント】（日本陸連 HP より抜粋）

勝因は、最後まで集中できたことなのかなと思う。決勝レースは、走りの内容を覚えてないくらいに集中していたが、とりあえず１位でゴールしたということはわかったので、その瞬間は喜びが爆発した。これまでずっと２位とか４位とかばかりで、すごく悔しい思いをしていたので、こういう晴れ舞台で、しかも地元の大阪での勝負を優勝で締めくくれたことは、今後に向けても大きいのかなと思う。

ここ１週間くらいは精神的にすごく疲れた。まだまだ走る（ほうの）改善点はあるけれど、まずは一度しっかり休んでから、オリンピックに向けて一から鍛え直していきたい。また、オリンピックもすぐにやってくる。（今の状態で）そのまま浮かれていても、世界の選手にはまだまだ及ばない。ここからしっかり練習を積んで、地力を底上げしたい。

＜無料写真素材「photo-ac」より＞

＜三中生のちょっといい話＞

ここ数日は、テスト当日の朝のトラブル発生に備えて職員室にいましたが、金曜日は久しぶりに朝の立哨を行いました。４月頃と比べると、自分からあいさつをしてくれる生徒も少しずつ増え、高等学校や企業が求めている「コミュニケーション力」が高まってきている人が、少しずつではありますが、増えている気がして喜んでいます。

そんな中、１年生のＪくんは、「いつもありがとうございます。」と言って通り過ぎました。こういうことを言ってくれると、疲れも一気に吹き飛びます。また、３年生のＫさんは、押しボタン信号で止まってくれる車に、いつもお礼を言いながら横断歩道を渡ります。優しい心配りが、素晴らしいですね。

これからも、三中生のいい話を、どんどん紹介していきます。私も一生懸命見ていますが、皆さんからのアピールも楽しみにしていますよ。いつでも、声をかけてください。